

放送大学の博士課程は募集人員が限られているため、有益な受験体験談等もまことに乏しく、したがってネット等で一般的な受験関連情報を収集せざるをえなかったが、そこで得たポイントの一つは、論文計画のテーマ設定の考え方であった。

つまり博士論文を構成する要素を想定するにあたっては、自分の関心のあるテーマを中心として組み立てるというよりも、いわば先行研究の中で隙間のあるもの、または研究実績はあるものの長く顧みられておらず、したがって研究史にブランクのあるものなど、換言すればこのテーマであれば当該分野の第一線に立てるかもしれないという実際的な観点から設定したほうがよいということであった。そこで当初は修士論文のテーマと直接的に関係する要素ばかりで構成することを考えていたのだが、国立国会図書館のデータベースで関連する論文のタイトルを集めてジャンル別に仕分けし、デフォルトのテーマと直接的にはつながらないものの、研究史の上ではかなりの断絶が認められるテーマを探し出すという作業を行った。むろんこの作業がどこまで受験結果に影響したかは定かではないものの、少なくとも自分の狭い視野を広げることにはつながったと思っている。

また私の参加した入学希望者ガイダンスで最も質問の手が挙がったのは、博士論文提出要件の一つである査読論文の掲載実績に関してであった。これは分野と機関を問わず課せられる要件と思うが、放送大学の場合は「関連専門学会の査読付き学術論文又はそれと同等レベルの学術論文を2編以上発表していること」が定められている。他大学のような紀要等の発表媒体を持たない放送大学の場合、必然的に大学外の学術団体等が発行する学術雑誌に投稿し、それぞれの難易度の差はともあれ、しかるべき査読を経て採用され、掲載されるという、いわば他流試合のルートを取るほかはなく、この点で他大学よりハードルが高いともいわれる。実際、少なからぬ博士課程学生の方々が苦闘しておられる点の一つも、この壁のクリアにあると風聞しているし、それは事実であろうと思う。

放送大学の博士課程は、既に立派な実績を積んでおられる研究者の方も多いうかがっており、そのような方々であればかねて存知されていることでもあろう。だが私のようにプロパーとしての経験も実績もなくして挑戦し、かつまた精神上・作業上のストレスをできるだけ軽減しつつ修了を希望されるのであれば、やはり受験の段階で掲載実績要件をクリアしているか、かなりの程度で目途がついているという状態が望ましいのではあるまいかというのが、自身の限られた経験の中で感じたことである。